

新年のご挨拶
学会誌の創刊によせて

会長 増田 優

新年、明けましておめでとうございます。

昨年は実に多事多難な一年でありました。化学生物総合管理学会におきましても、実に多くのことが起こりました。十年間で起こるべき事柄が一年の中に凝縮したと言っても過言ではないかと思えます。

2004年1月に化学生物総合管理学会を発足し、4月には特定非営利活動法人(NPO)に発展しました。企画運営委員会と編集委員会を設置し諸規定の策定を進め、7月には第1回の学術総会を開催いたしました。そして、学会の活動をより多くの方々を知っていただき積極的に参画していただく機会を増やすため、9月にはホームページを開設いたしました。また、学会の最も重要な草の根の活動としてGHS研究会、REACH研究会、ナノ研究会などの研究会を立ち上げました。お陰様で、研究会には外部から調査の依頼が寄せられるまでになりました。

開講を支援してまいりました公開講座「化学生物総合管理の再教育講座」は、100人近い講師陣の参画により15科目(1科目90分授業15回)を開講し、延5000人近い人々が足を運んで下さっております。2005年度にはさらに発展を遂げ51科目を開講し、教育委員会と連携し小中高の先生方の研修にも踏み出す準備を進めております。

しかし化学生物総合管理学会にとって、これらは「多事」ではあっても「多難」ではありません。会員の皆様方の自由な意思に発し、そして、会員の方々の熱意ある参画と行動に依ってもたらされた結果であります。「多難」と言うよりは「多幸」と言うべきことかと思えます。化学生物総合管理学会にとって、多事多幸、実に実りの多い一年でありました。これもひとえに、会員の皆様方のご努力と多くの方々のご支援の賜物であります。改めてここに感謝申し上げる次第です。

新年を迎えるにあたり更なる朗報をお伝えできることを大変喜ばしく思います。年が明けるとともに、意見交換と論議の場として、自己研鑽と提言・発信の場として、さらに研究と教育を促進する場として、ホームページ上に学会誌「化学生物総合管理」を創刊することといたしました。学会誌は化学生物総合管理学会の活動に新しい拠点と人の輪を生み出すものであります。

この学会誌は、科学的知見に基づく論理的思考を旨とする多くの方々に広く開かれております。学会員のみならず、化学物質や生物のリスクの評価や管理に関心をお持ちの方々、そしてこの分野で実務や研究にたずさわるの方々のご投稿が可能です。また、いわゆる学術論文や研究論文の投稿に限らず、多大な労力と知的活動の集大成であるリスク評価書やリス

ク管理書の投稿、内外の情報や動向に関するレビューや提言などの投稿、企業や行政、地方自治体や NGO・NPO、専門機関やシンクタンク、大学や学会などの実社会における諸々の経験を背景とした投稿なども大歓迎です。また、学会誌上において、良識と一定の規範の下に、論議と意見の交換を行いうるよう運用していくこととしております。

創刊号の発刊に当たり、こうした化学生物総合管理学会の趣旨と学会誌「化学生物総合管理」の特徴をご理解いただき、多くの方々から特色ある投稿をいただきました。また、多くの方々のご多忙の中、熱心に査読に携わって下さいました。そして、何よりも編集委員会の方々の献身的なご努力には目を見張るものがありました。おかげさまで、これまでにない特徴を持つ、内容豊富な創刊号を発刊することができました。

学会誌の創刊を契機として、こうした皆様方のお力添えを結集し化学生物総合管理学会の一層の展開のために、心新たに邁進してまいりたいと思います。さらに多くの方々化学生物総合管理学会へ参加し、諸活動へ参画して下さいることを期待いたしております。

新たな年の始まりにあたりまして、皆様のご多幸とご発展を祈念申し上げます。

2005 年 1 月